

## 夏制服リニューアル



JA筑紫は、6月1日から女性職員の夏制服を5年ぶりに一新しました。

新しい制服は、青のスカーフが印象的な今までにない涼しげな配色の制服を採用し、シャツには、通気性が良くひんやりと感じる心地よい生地を使用。ベストは濃紺を基調とし、水色のチェック柄の落ち着いた雰囲気デザインのデザイン。メッシュ生地、汗や湿気を吸うたびに冷たい感触をキープするキシリトールの涼感加工が施されています。

制服は、女性職員の投票により、3種類の中から選ばれました。着用した職員は「着心地がとても良いです。新たな気持ちで業務に取り組みたいです」と笑顔で話しました。

## 青壮年部が田植え授業をサポート



JA筑紫青壮年部は、那珂川市立南畑小学校5、6年生の児童と共に田植えを行いました。この取り組みは、児童の食育活動をサポートする目的で毎年行っています。

児童は部員と共に田んぼに入り、縄に付けられた印に沿って「元気つくし」の苗を丁寧に手植え。初めて田植えをした児童は「足が土に飲み込まれていく感覚が楽しいです」と話しました。

また、小学校の1、2年生が手作りのうちわを持って田んぼに駆け付け、田植えをする上級生を応援しました。

部員の坂井達次郎さんは「この経験を通して、農業の楽しさや大切さを学んでくれると嬉しいです」と話しました。

## JA 筑紫ブロッコリー部会「2020年度作付検討会」



JA筑紫ブロッコリー部会は6月10日、JA物流センターで「2020年度作付検討会」を開きました。検討会には、部会員や普及指導センター、種苗会社、農業共済組合、JA役職員などが参加。

部会員は、目標達成に向け、7月からの播種・定植時期の決定や意見交換で足並みを揃えました。

部会は24名で、作付総面積は約17ha。出荷先は、福岡大同青果市場や久留米青果市場を主とし、2020年度目標出荷量は約86t、販売額は約2400万円を計画しています。

栽培品種は、「ピクセル」や「おはよう」など13種類で、市場需要に対応するため、品種ごとの栽培管理を徹底し、出荷予定日の確認を行なっています。重点を置く苗づくりでは、8月に部会員が相互の圃場を巡回し、良品生産に向けて生育状況を確認します。

JA農業振興課担当職員は、「巡回を強化し、高品質出荷ができるように努めたいです」と話しました。

## 稲穂の無事祈る「斎田御田植祭」



太宰府天満宮は太宰府市観世音寺の斎田で6月14日、「斎田御田植祭」を斎行しました。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため出席者を制限し、神職や氏子、地元の農業関係者などが参加。恒例の神事で、秋の豊作を祈った後、色鮮やかな衣装を身にまとった天満宮の巫女（みこ）が「早乙女の舞」を奉納しました。

その後、宮司による初植えに続いて、菅笠にもんぺ姿の巫女（みこ）や氏子らが斎田に入り、丁寧に手植え。これは、5月の「斎田播種（はしゅ）祭」で種もみをまいて育てた苗です。

10月中旬には、稲穂を収穫する「斎田抜穂祭」があります。収穫した米は、11月の「新嘗（にいなめ）祭」で最初にお供えし、天神さまへの朝夕のお供えや、太宰府天満宮の全ての神事などで使います。

## JA 職員が田植えの授業



JA筑紫日の出支店の職員は6月中旬、春日市岡本の春日小鳩幼稚園の園児に田植えの授業を行い、園児とその保護者約200名が参加しました。

これはJAが取り組む「ふれあい活動」の一環。園児たちに食と農の大切さを伝えるため、幼稚園の永島正和園長と支店の勝野力支店長を中心に今年初めて企画しました。

JA職員は苗の持ち方や植え方を説明。園児は保護者と一緒に田んぼに入り、縄に付けられた印に沿って苗を植えました。初めて田んぼに入った園児は、足が飲み込まれていく感覚に驚いたり、手で何回も触ったりするなど土の感触を楽しんでいました。植えた苗は10月に刈り取る予定です。

勝野支店長は「田植えを体験して、農業に少しでも興味を持ってくれたら嬉しいです」と話しました。

## 2020年度稲作中間管理講習会



JA筑紫は、管内59カ所で、6月25日～7月16日まで9日間の日程で、2020年度稲作中間管理講習会を開いています。適正な栽培管理を呼びかけ、高品質な米作りを目指します。

太宰府市北谷地区では、組合員とJA職員など14名が参加しました。気象と生育状況を踏まえた栽培管理や、病害虫対策などをJA営農生活部職員が説明。参加者は、真剣な表情で資料に目を通しながら説明を聞き、水の管理などについて質問しました。

営農生活部の職員は「これからの作業を安全に行い、高品質な米づくりに努めてほしいです」と話しました。

## 組合長が児童に田植えの授業



JA筑紫の白水組合長とJA青壮年部は、春日市の春日市立大谷小学校5年生に田植えの授業を行いました。

この取り組みは、小学校の総合学習の一環。児童の食育活動をサポートする目的で15年以上続いています。

白水組合長は苗の持ち方や植え方を説明。児童は田んぼに入り、縄につけられた印に沿って苗を丁寧に植えました。初めて田植えをした児童は「田んぼの中に生き物がいっぱいいて面白いです」と笑顔で話しました。

また、田植え後には白水組合長へ「お米の種類は何種類ありますか?」「お米を作る時に心がけていることは何ですか?」などの質問が次々と挙がりました。

学校は、学習の成果を高めるために田植えなどを行うたびに絵や作文を書き、成長を観察するように児童へ促しています。

植えた苗は、10月上旬に刈り取り、おにぎりにして味わう予定です。

白水組合長は「自分で植えた苗を毎日観察し、お米がどのように育っていくか学んでほしいです」と話しました。